茅一覚書

茅二覚書

茅三覚書

A 4439
112

414
A4422
414
A4423

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第一覧書

故琉球ノ島主現時全島ノ藩主尚泰其使臣尚健等ヲ入朝セシメ我皇帝ニ奏上シテ云ク去年第十二月十日琉球ノ島民六拾九名那覇ニ往テ帰航ノ片臺湾南東岸ニテ乗船破壊シ三人溺死シ六十六名幸ヒニ陸上ニ至ルヲ得テ仝月十八日ニ至ルノ間諸所漂泊シ道路ニ迷ヒ終ニ牡丹生蕃ノ地ニ迷ヒ入タリ仝

月十九日牡丹人ニ出逢シ衣服ヲ剥キ取ラレ所持品ヲ奪ハレ辛ク性命ヲ脱シテ他村ニ逃入シニ牡丹人探知シテ直ニ難民ヲ圍繞シテ泄サス五十四人ヲ捉ヘテ是ヲ殺シ僅ニ十二名存命ヲ得タリ而テ信切ナル土人ノ助力ヲ得島ノ西岸ニ在ル一ノ村落ニ送ラレタリ此村落ハハラカスト雑種人ノ住地ナリ此処ヨリ臺湾府ニ送ラレ支那官人ヨリ衣食住便ヲ給セラレタリ

我琉球ノ民ハ従来臺湾島ニ於テ毫モ犯セル罪ナク又祖先ヨリ牡丹地ニ生セル一根ノ草一塊ノ土ヲモ私セシナキニイカナレハ牡丹人慘刻ヲ逞フシテ敢テ生命ヲ害セルヤ之レ上天ノ意ニ悖リ善ヲ悪トシ悪ヲ善トシ又天間ノ平寧ヲ害スル之レ報仇ヲ為サヽルヿ能ワサル所以ナリ惟ミルニ琉球人民ハ日ヲ晨圃ニ送リ耕耘ノ道ヲ知リテ用兵ノ道ヲ伺知ラス而テ皆之レ日本順従ノ良民ナレハ素ヨリ

皇帝陛下ニ恭謙以ニノ忠誠ヲ運フ仰キ願クハ皇帝陛

下彼ノ[illegible]モ世島民ノ罪ヲ責メ外人ヲ優待スルヲ知ラシメ
旦人タルノ務メヲ教ヘ王ワシテヲ
皇帝之ニ答テ云ク茲ニ考フルニ日本從民ハ臺湾ノ横
害ヲ被フルモノ今次ニ至ルマテ已ニ四回ニ及ヘリ曩時支那
人海賊ト名ケル國姓爺曾テ島ノ西岸ニ割據セシ時ニ
我ノ從民タル琉球ノ人船掠奪ニ逢シニ我政府ヨリ其罪
ヲ責メ償金トシテ三萬テールヲ拂ワシメシ事アリ爾来
五十年前道光二年三十年前全三十七年允前後両

度我從民全島ニテ横難ヲ被リシニ清國政府一モ所
分セラレシ事ナシ今琉球ノ使者入朝シ琉球人民ノ為ニ償
還ヲ得シ事ヲ乞フ前条両度ノ所分セラレシ事ナキニ因テ
考フレハ清國政府島内生蕃部ニ及ホス政權ナキヤ或
ハ政權ヲ及ホスヲ好マサルヤ抑好シテ能ワサルヤ前述ノ
諸件スヘシ我
皇帝ノ睿聞ニ達セシニ敕旨速ニ琉球人民ノタメニ我
日本ヨリ諸事ヲ助ケ辨シ得サスヘシト此敕旨ヲ遵奉シ

欽命惣理外務大臣ノ派遣ニ緣艢ヲ浮ヘ鋭勇ニシテ山戰ニ馴レタル驍兵ヲ遣シ牡丹部ニ至ラシメ殺害ノ顛末ヲ檢査シ其罪ヲ問ワントス彼モシ恭順罪ヲ悔ナハ之ニ仁義ノ道ヲ教ヘ向来不法ノ行ヒナカラシメ又昏昧頑愚覺ラスンハ速カニ誅戮ヲ加ヘ事成ラズンハ敢テ返ラス此准備已ニ整フノ日ニ方ツテ偶々先年合衆國ノ政府モ清國政府ニ對シ之ニ齊シキ事件アリテ其為全國アトミルヘール氏嶋ノ南部ノコアルワノ地ニ至リ師ヲ進メテ其罪ヲ問ヒシヿアル由ヲ全國政府公告ノ書ニテ一閲セリ之ニ因テ我國ニ在留セル米國欽差ニ至ツテ尚其殘ル事情ヲ尽シ足ラサルヲ補ナワントス米欽差云ヘラノ頃合衆國欽命陸路提督兼領事李合衆國ニ歸ラントシテ路ヲ貴邦ニ假リ現ニ横濱港ニ着セリ此人曾テ厦門臺灣ニ在ツテ全島ニ関セル諸件々熟知セリ貴政府宜シク此人ニ就テ其欽タルヲ補ヒ主ヘト是ニ於テ李氏ニ就テ諸務ヲ叩問シ所有ノ要書ヲ見ルヲ得タリ即チ同氏カ

同治十一年三月初十日ヲ以テ北京住劄米欽差魯氏ニ
呈セシ書翰モ其中ニアリ此書翰ニ一千八百六十七年米
商船ローウル号ノ水夫ノ害ニ逢セシ事件ト一千八百七十一年
琉球人ノ横難ニ罹リシヿモ載タリ李氏云ヘラク此書既
ニ米欽差魯氏ヨリ清國總理衙門ニ轉達セラレシ清國政
府ハ此書中載スル所ヲ諾シテ嶋ノ南部ニ要用所置ヲナシ
外客ノ横難ヲ救助スヘシト約ヲナセリト我政府之ヲ聽キ
李氏カ勸言セル島ノ南部ノ所置ヲナスハ極メテ要用
ニシテ文明ヲ開キ人間ノ道ヲ貴ムタメ急務ナルヲ信シ且
思ラク今支那政府已ニ此約ヲナシ島南ノ所置ヲナサントス
若シ此時ニ方ツテ我戦隊彼地ニ至ルヿアラハ却テ其妨
ケアルヘシ不如我政府姑ラク止ミテ此一書ヲ贈リ先ツ其
端ヲ開カシニハ思フニ米國政府ノ清國政府ニ照會シテ
臺灣南部ノ民ニ教化ヲ與ヘンヿヲ勸メシハ其當然ヲ得
タルトスヘシ然リトイヘトモ我政府ノ欲スル所ハ惟南部ノ
ミニ止マラス必スヤ南部ノアルヲヨリ北甲嫣(コハモ)蘭廳(ラニイン)ノ南更

ニ至ル海岸遍ク教化ヲ得テ暴行ヲ止メサルノ間ハ外旅出
全シテ保護ヲ得タリト云ヒカタノ隨テ我政府ノ意未タ滿
タサル也我日本從民琉球人去年牡丹人ニ害セラレ三十
年前五十年前兩度土蕃ノ害ヲ受ケシニ因リ我政府
必ス其等ニ代テ贖償還ス或ハ償金ヲ求メントス閑支那政
府牡丹人ヲ管轄スト理マサニ清政府ニ就テ償金ヲ求
メシ而テ今支那政府ノ島ノ南ニ所置ヲ施サントト約セシハ
之レ米國政府ノ為ニセルニテ我為ニスル所以ニ非ズ故ニ
之レ琉球民殺害サレタル償還ニ非サル明ケシ
今我日本國ヨリ直ニ臺灣島ニ入リ支那政府ノ助ヲ借ラス
牡丹人ヲ罰シ而メ之ヲ開化ニ赴カシムルノ理アリヤ又ハ之ヲ支那
政府ニ乞フヘキヤ否ヤヲ方國ノ通法ニ考アルヲヲ要用ナリ
トス譬ヘハ大洋中ニ一孤島アリ野蕃之ニ住セシニノ文明
ノ民之ヲ檢出セハ自カラ其主宰トナリテ勉メテ此野蕃ノ民
ヲシテ開化ニ赴カシムヘシ然リト雖モ此蕃民等開化ヲ嫌ヒ教
化ニ服セス他ノ國民ノ害ヲナセハ亦シノ此民ヲ移シ開化ノ民

之ニ代ルヘキナリ之先年オステーリヤ又ニユージーランド地名ニ於
ル或ハ米ノカルホルニヤ又ハチヨキ地名ニ於テナセシト全様ノ例ナリ
又譬ヘハ島アリテ其住民一半ハ文明ニテ一半ハ野蕃ナラ
ニニハ文明ノ一半野蕃ノ一半ノ為メニ法ヲ定メ制ヲ設
ケテ之ヲ管轄シ其属地トナスノ権(フルウリナ)アリ然ルニモシ支那政府
此島ヲ自ラ検出セルトモ又ハ自ラヨシ検出セサルトモ此一半
ノ島民ニ遍ク教化ノ益ヲ布キ及ホセシコトアラハ支那政
府他ノ一半ヲ管轄スルノ理アリト云ハシ支那政府ノ一モ是

等ノ事成リヤ否予今其證ヲ示サントス
天晴レ氣朗カナル片ハ福州近傍ノ高山ニ登レハ
一目臺湾島ヲ見ルヲ得ヘシ斯ノ如キ隣近ノ
地位ニ在ナカラ明宣宗即位第四年ニ至ル
マテ一ノ支那國人ノ彼地ニ至リ之ヲ開キ之ヲ
取ラントス企シ者有ラナシ千四百三十年宣宗
第四年ニ方ツテ偶々支那ノ船舶飄泊シ
テ臺湾ニ至リテ難破ニ及ヒシニ此島日本人ノ

所有ナリシニセヽ此頃日本人ハ盛カニ通商ヲ
勉メラ遠クベンガルノ地マテニ至ル此時臺湾島
モ已ニ日本人ノ手中ニ在リシヿハ前ニ云ヘル難
船ノ支那人現ニ見聞セシ所ナリ
熹宗茅二年ニ至リテ和蘭人此地ニ航シ至リシ
ニ日本人ノ西岸ニ割據シタリ
此時和蘭人島中ニ在ル日本人ニ乞ヒ一小地ヲ
得テ其日本ノ本地通商ノ船ヲ修補セリ

日本ノ此島ノ西岸ヲ有セル間ニ生蕃(アボリゼ子ス)ト交リ
厚ク已ニ婚ヲ結ヒシヿモアリ而シテ生蕃モ日
本風俗ヲ慕ヒセニ今シカラニヿヲ願ヒシ事
甚多シ
國姓爺ノ母ハ日本ノ女ナリ現今ニ至ルマテ臺
湾縣ノ東部ノ高山梵ニ住スル人民ハ尚日本
ノ服ヲ着セリ彼等日本人ト親ミ甚睦マシク
日本人モ彼ト交ワルニ信ヲ厚フシケル故ニ彼等

更ニ爭論ノ端ヲ開キシ一ナシ
日本政府ノ内地ノ政務ニ暇ナク意ヲ臺灣ノ
事ニ注クヲ止メシ后和蘭人全島西岸ニ於テ
居留ノ地ヲ廣メ彼等追々擴張シテ鷄籠
淡水鹿港彰湖(ピスカドル)臺灣府ノ諸所ニ炮臺ヲ
築造シ大ニ兵備ヲ整ヘ盛カニ長持ノ計
ヲナシ其權遠ク諸海岸ニ及ヘク此ニ至リテ
少シク怠惰ノ氣ヲ生セリ此時ニ方ツテ支那
福建ノ民此地ニ通商々然ルニ韃靼ノ入寇ニ
逢ヒ内地ニ住居安カラス福建ノ民各外國ノ
移住ヲ志シ臺灣ニ移住スル者甚多シ茲ニ
和蘭ノ人數多キヲ加ヘス隨テ其勢又初メノ
如ナラス支那人ノ勢ヒ次第ニ增タリ嗣テ清
ノ世ニ改マリ千六百五十九年順治帝即位十
五年ニ方ツテ國姓爺和蘭ノ島中ニ在ルヲ
討テ數回戰爭ノ後テ安平(アンピン)ノ炮砦(ホウルト)ヲ取リ

和蘭人ヲ島ヨリ悉ク追散ラシタリ

和蘭人ノカク四十九年ノ間臺湾島ニ在ルヲ得タルハ日本及ヒ生蕃ノ免許ニ因テナリ和蘭人ノ此島ニ居ルノ間ハ日本人ノ在リシ日ト全ク信切ニ生蕃ト交誼ヲ結ヘリ

和蘭人此島ニ在リシ日生蕃部中ニ住シテ親シク交ワリシジョージカニデイデュスノ著書ヲ閲スルニ生蕃島ノ諸部ノ土民ヲ概シテ論スルニ其性質(コーデ)温良(ヲンリヤン)ニシテ愛(アフエーフル)スヘクシテ且忠實ナリ人ニ交ルニ甚信アリ彼等其朋友又ハ其　ニ叛カンヨリハ寧ロ死セン事ヲ希ヘル如キ予之ヲ知ル彼等ノ外國人ト約ヲ結フヤ堅ク遵守シテ破ルコトナク不忠不信ハ尤モ其賤シスル所ナリ彼等ヨキ記臆アリテ易ク物ヲ學(インセニウカテー)フヘキ質ヲ備ヘタリ彼等既ニ和蘭ノ語ヲ解セリ其一證ヲ示ハ島中ノ言語ヲ和蘭文字ヲ以テ書綴リ

タルノ見タリト其外和蘭ノ著書家前ニ云ヘル
此諸説ヲ確據アリト證明セリロベルチェスチュエ
スハ明ノ懐宗即位第十二年第三年マテコノ
島ニ住セリ
ガラウィウスハ清朝順治三年ヨリ第七年マテ
此嶋ニ住セリ
領事李氏ハ一千八百六十七年ヨリ七十二年マテ
度々同島ニ交通セシ人ナリ以上ノ人々イツレモ

前説ノ相違ナキヲ確言ス此人ヨリ政府ヘ公告ノ
書中ニ載セタル趣アリハクサニ於テカンヂイテュスノ
時代ニ島ノ方言ヲ和蘭文字ヲ以テ書綴ミタル
通常ノ證券ヲ見タリト其中壹通ヲ寫眞ニ
シテ我國ニ持来リ我カ一覽ニ供ヘタリトアリ國
姓爺カ此島ヲ治メシハ永久ノ間ニ非ラス此島
其手中ニ入シ后一年九月ニシテ彼レ死タリ千六
百六十三年康熙即位第二年ニ至ルマテ支那政府ノ官員

此島ニ至リテ事ヲ執ル者ナシ此歳始メテ
道臺ヲ発シテ政事ヲ司トラシム然ルニ彼
ノ政事ノ方法最前日本人或ハ和
蘭人ノ時ト大イニ同シカラス日本人或
ハ和蘭人ノ島民ヲ馭スルハ安ラカニ仁
義ヲ以テ民ニ接ス支那人ハ然ラス暴悪ヲ以
テ之ヲ率ヰ民ヲ害スルヤ甚タ多ク竟ニ今日
ノ形勢ニ至レリ

國姓爺此島ヲ和蘭人ヨリ手ニ入レシ后最初ニ
行ヒシ一策ハシブクントライブスニ兵ヲオクリ都山ヲ
取ラントノ企ナリ之レ都山ハ都山石ヨリ成レルト伏
思ヒシ故ナリ然ルニ数回山巔ニ至ラントヲ試ミタレモ
山中ノ土蕃之ヲ妨ケ其企ヲ遂クル能ハス遂ニ西岸ノ
故地ニ回レリ
此后支那人政府ノ免許ヲ得テ支那人屢深山ニ
入リテ金銀ヲ見出サントヲ務メタリタカオノ東部ニ

在〃高山ニ住スルタオシヤトライブト唱フル土蕃ト戦
ヒ負ケテ逃帰ヘリ又或ハ船ヲ発シテビーラム
ニイタリ兼テ聞シ如ク土民ノ地ニ在ル金塊ヲ得ン
コヲ企テ先ツ其土人ニ土宜ノ品ヲ与ヘテ其心ヲ安ン
セシメ夜中俄ニ起テ之ヲ殺害セシニ他ノ土蕃之ヲ聞キ大挙シ
来リテ支那人ヲ攻メ殆ト遺民ナキニ至リ僅ニ数名逃回リ七日注
進シタリトヒ現時ニ於テ樟脳ハ此地茅一ノ貿易品ナリ総テ樟村
ノ深山ニ生スルヤ皆生蕃ノ有スル所ナリ支那人此地ニ
在ルモノ此樟樹ヲ得ンタメ甚タ賤ムヘキ小技
ヲ用ユソハ生蕃等カ山猟ニ出タル折其地ヲ守ル
ハ只老人婦女ノミナル時ヲ伺ヒ人数ヲ率ヘ兵
具ヲ持シテ深山ニ入リ樟村ヲ奪ヒ樟脳ヲ製
スルナリ
支那人土蕃ト戦フ毎ニ一度モ勝ツコト不能故
ニ北地淡水甲碼蘭廳ノ近傍ニ在ツテハ謀ツテ
一池ヲ得テ名ヲ友誼ニ托シ酒ヲ勸メ阿片烟ヲ

吸飲スルヲ教ヘ其體ヲ労ラシ其末之ヲ殲滅ス
島ノ北部仔墾中立新鎮鷄籠嶋ノ近傍ニ
在ル高地ニ於テ常ニ支那人ノ行ハル所ナリ土蕃ノ
境上ニ住セル支那人ノ兼テ公然ト云散ラセル此
后百年ヲ出テスシテ前條ノ手段ヲ以テ生蕃ヲ悉
ク殺シ尽サン事疑ヒナシ
日本人ノ和蘭人友睦ノ交ヲナセシ土蕃ノ子孫ノ
今存シテ臺湾府ノ東部ニ在ルモノ支那人ノ
暴忍ノ取扱ニ堪ヘスミナ山間ノ小路ヲコヘ
全家ヲ携ヘテ島ノ東岸ニ移住ス
前条ニ云ヘル数条ハ支那人ノ生蕃ヲ卒ユルノ
術ニシテ乃チ土蕃ノ嫌忌シテ服セサル所以
ノ物ナリカヽル譯ヲ以土蕃偶マ外人ノ其地ニ来
ルヲ見レハ此等ノ人モ又支那人ノ如ク暴忍ナラン
ト推見シテ屏狼ヲカルカ如ク之ヲ殺害スルコト
ナリ

生蕃ノ支那人ヲ嫌悪スルノ情実ハ領事李氏カ去ル六十七年支那ノ兵ト共ニ生蕃地ニ入リシ時ノ一件ヲ米國政府ニ報告セシ書面ニ詳悉記載セリ其内一事ヲ挙ケハ領事李氏米國ハ手殺害ノ雄ヲ請ヒシ一件ニツキ土蕃ノ首長篤(トク)其倬ニ會シ將来ノタメニ約ヲ結ヒタリ此約成ルノ后支那ノヒチラル又和ヲ成サントセシニ篤其倬之ヲ肯ンセスシテ其女二人ヲ遣ワシ之ニ答ヘテ云ク

従来支那人信ヲ失シ約ニ背キ欺詐百端挙ケテ数フヘカラス予斯ノ如キ人ト約ヲ結ヒヲ好マス結フモ又敗フルヘシ因テ千人カ一人ニ成ルヲテモ血戦シテ了ルヘシト臺湾居留ノ支那人等前陳ノ如ク悪行ヲカラス此等恐ラクハ貴國政府ノ旨意ニ反セルモアルベク貴國政府ヨリ臺湾在勤ノ士官ヘノ訓条ニ齟吾ナセルヲ条モ多カルヘケレトモ右支那人等ハ我権外ノ民故何トモ我カニ及ハ

ス此責貴國政府ニ在ラストスヘケンヤ貴國政
府ノ此責ヲ重ンスヘキ所以ト其結果ニ就テ我政
府ノ思惟スル所ヲ以貴國政府ノ考察ニ供スル
ノ所尤ノ如シ
過キシ十年前ヨリ東西ノ交通日ニ隆盛ニ赴キ
タリ交通屢ナルトキハ互ニ知ルヿ甚多シ互ニ知ル度
多ケレハ之ヲ重ンスルノ意モ又隨テ甚ノ増加
ス曰ク互ノ風俗意思及術藝ノ類モ諸國互ニ
通用ス之ニ曰ク國家ノ政務ト國民ノ利益ト人
民交際ノ間ニ於テモ渙換ヲ生スル甚多シ諸
國交通ヨリ生スル渙換止マサルヤ数百年ノ后
ニ渉ツテモ尚オニ十年前ノ今ニ於ルカ如ク
竟ニ亜細亜大洲一國ニ及ンコト能察スル者ノ敢
テ疑ワサル所也而シテ外國風習ノ此國ニ適セル
物ヲ採リ之ヲ本地ノ用ニ施セシハ東方諸州ノ中ニ
於テ獨リ我日本ヲ以テ魁タリトス

我日本ノ権力昔ニ勝リ人民ノ幸福今ヲ盛
ナリトスルハ実ニ此ノ交換ヨリ生セシヤ疑ナシ今
試ミニ交換ニ因ツテ斯ノ如キ利益ヲ得シ原由
ヲ説カンニハ茲ニ新奇ニシテ且有益ナルコトヲ勧
ムル者アリテ我國之ヲ採用セントスルトキニハ先
ツ其ノ事ヨリ我民人ノ幸福安全ヲ確実ニシテ
シムルヤ否ヤヲ判決シ兼テ外國ヨリ我カ好マサ
ルトコロノ物ヲモ我ニ強カニ勧ムルヲ避ケン為ニ

注意スルコト甚篤シ此注意ヲナスノ要用ナルハ
彼等ノ一地ニ據リ移民ヲ繁殖セシムルノ一事ヲ
豫防スルヨリ急緊ナルハナシモシ一着ヲ誤ル
一彼等ト争ヲ生シ論端ヲ起シ之レヨリシテ彼
ニ殖民ノ詞柄ヲ與ヘハ之レ恐ラクハ彼ノ強勧ヲ
未スノ基トナラン
貴國モ我國ト同シク西洋永利堅ノ各國ト結
約セリ此結約國ノ中ニハ東方亜細亜地方ニ

於附屬ノ國ヲ持タルモノアリ而シテ附屬國ヲ
東方ニ持サル國モ多クアリ此ノ既ニ有セル屬
國ハ其儘彼ニ屬シ置トモ此后決シテ屬國
ナキノ國ヲシテ寸地モ割據セシメカタシ
貴國其外亜細亜ノ國々ノ中ニハ一部落ノ地
アリテ未開ノ民種ノ之ニ住セリ斯ノ如キ部
落アルハ前述重大ノ理アルニ因ツテ決シテ西人
ニ移殖ヲナサシムヘカラス而シテ東人必ラス之ヲ
開クヘシ
我政府ノ常ニ信用スル処ハ西人ハ心公平
ヲ貴ム予ニオイテ事ヲ起シ論端ヲ開ハ
トナクハ彼敢テ来ツテ民ヲ殖移スルコト
ナカルヘシ予イカンシテカ彼ト論端ヲ開
クヲ避クヘキヤ茅一ニ我カ天與ノ権義ヲ
守リ敢テ人ヲシテ犯スナカラシム茅二ハ
条約ヲ遵奉シ萬國ノ公法ヲ守リ茅三ニハ

時勢ノ変換ニ注目シ古ト今ト均シカラサ
ルヲ知ルノ三事ニアリ時勢ノ変換ニ注目
スルニツキ必用ナル一事ハ世界中ノ航海
ヲ安ラカニシ海客ヲ助クルニ在リ之レ領
事等ノ官ヲ設シテ遠ク海外ニオクル所以
ナリ若シ人アリテ何ノ為ニ航海ヲ扶助ス
ルヲ要スルト問ハヽ予此レニ答ヘン航海
ハ諸人必需ノ物ヲ運輸シ人民ヲ和樂ナラ

シム物足リ民和ラクカ故ニ國家常ニ平寧
ナリ英佛蘭西班牙東方ニ属國アルモアラ
ザルモ其海船ノ日本ニ往来スルヤ必スソ
ヲルモサノ南方岸オヨヒ東岸ニ沿フテ航
海スヽレ黒瀬ノ急流ノ日本ニ向ツテ走ル
ニ因ツテナリ而シテ海船往来ノ多キ此島
ノ南東岸ニ如クモノナシ米利幹ノ航海モ
同例ナリ而カルニ此島ノ近海ハ他所ニコ

ヘテ風高浪荒キカ故ニ海船屢々飄流シテ
岸ニイタリ難破スルコト甚多シ然ルニ我
前条ニ云ヘル如ク清國政府臺湾島ノ生番
ニ開化ヲ導クヲ怠タリ暴ヲ以テ彼等ヲ遇
セルハ上天ノ道理ニ背ケルコト明カナリ
斯ク開化ヲ施スコトナク暴以テ之レヲ率
ヒシニヨリ島民ノ外旅ヲ視ルコト讐敵ノ
ゴトクマタ外人ノ島民ヲ見ルコト犬狼ノ

如シ而シテ土番ノ地ハ現實未開ノ地ノ如
ク空曠ニナリ行キ何レノ國人タリ已容易
ニ移殖スヘキノ勢ニシテ各國悦ンテ清國
政府ノ不幸ニシテ為スヲ怠レル所ノ物ヲ
為サントス而シテ殖移ヲ東方ニナサンカ
企テタル各國ニ於テハ臺湾島民已レヲ欲
視スルノ形勢ヲ嫌ヒ皆詞ヲ借リ端ヲ設ケ
ンヿヲ注意セリ

日本政府ハ前ニ述ヘタル如ク西人ノ我カ近北ニ在テ殖民スルヲ好マサル故ニモシ支那政府ニテ此地ヲ有スルヲ好マスハ西人ノ手ニ落サンヨリハ寧ロ我國ヨリ此地ヲ領スヘシ

此地最初日本人ノ探知ヲ経地勢モ我帝國ノ南西ニ連輯シ而シテ我従民ノ難ヲ蒙リ害ヲ受シ了数回ナル故我政府此地ニ就テ

難民ノ愁訴(アジョウト)ヲ定(クレイム)メントス

今前条説ク所ノ諸件ニツキ清國政府ノ注意ヲ煩ワス茲ニ支那ト日本ハ数百年前ヨリ親交絶ヘス近頃日本政府ニ於テハ猶此親交ヲ厚クセントト秘魯政府ノ不樂ヲ悍カラス其勢権ヲモ懼ルヽ了ナク同國マリヤルウツ船ニ乗組タル支那落難ノ窮民ヲ助脱シ以テ友誼ヲ表シタリ而アルニ前件臺湾ヲ

南岸ニ於テ土番ノ害ヲ受タル我從民ノ愁訴誠ニ默止シカタシ切ニ希望スル所ハ清國政府モ我表明セシ處ヲ以テ其心トシ忠信以テ事ニ從ワレンヿヲ之レ文鄰ノ道ヲ固結スル所由ナルヘシ古ニ速ヘタル所ノ者ハ欽差全權大臣ヲシテ支那政府ト引合セシムル所ノ目安ナリ而左ニ記載スル所ノ者ハ我公法家斯密多氏ヲシテ公法ヲ以テ旁議セシムル所ノ者也我文意此ト重復異同繁簡ノ差アリ我將ニ取捨スル所アラントス

第二　覺書　壬申十月十五日起稿

清國總理衙門ニテ我政府ヨリ琉球人殺害ヲ受ケシ一件ヲ談判ニ及フヿハ想フニ彼ノ答ヘン所ハ琉球ハ清國ノ附庸ニシテ生蕃ノ地ハ臺灣ノ一部乃チ支那帝國ノ中ナリ因ッテ曲ヲ罰シ民ヲ治ムルハ元ヨリ我カ習俗ナレハ此責我カ政府ニアリ既ニ去ル卯年（千八百六十七年）合衆國政府ノ乞ニ應シテ人工國民ヲ害シタルコアルツ（番種ノ名）ヲ我國ヨリ兵ヲ發シテ罰セシコトアリ是其責ヲ我政

府ニテ任セシ一証ナリ尚ヲ琉人ノ害ヲ受シヲ聞ヤ否ヤ
速カニ敕旨ヲ以テ牡丹人ヲ嚴罰スヘキ旨ヲ普示セシ
ヿ現ニ當年五月ニ在リ日本使人述ヘラレタル清國
民カ生番人ニ対シ奸謀欺詐ヲ施セシ一件ニツキテハ
將サニ事由ヲ査問シ要用ノ所置ヲナスヘシト又生
番ヲ所置セシ一事ニツキテハ彼等野蠻ノ人其俗其
所行悉ク賤ムヘク怕ルヘキ兵力ヲ以テ壓伏シ難望
ラクハ日本政府ニテ其民ノ珍トシ宝トセル性命ヲ無用

ノ地ニ抛ツコト勿レ又貴國政府ノ「マリヤルーズ」船乗組ノ
清國人民ヲ救助アリシヿニ付テハ感激尤モ涯リナク
猶両國ノ交誼年ニ篤キヲ加ヘンヿヲ願フト
此談判ノ結果ハ察スルニ峻言ヲ發シ平和ヲ破ルニ
至ルベシ然ルモ必スヤ支那政府ニ乞ヒ臺灣島ヲ予ミ
與ヒ(コミート)スル様ニ仕ナスヿ要用ナリ此ノ乞ヲ彼ニ成スタメノ理ハ
左ニ詳述ス
第一ニ清國政府從来臺灣島ノ南東ノ部ヲ巡治

スル能ワス又其権ヲ布張シテ政令ヲ暢達シ事
務ヲ理スルヿ能ワス此等ノヿ現ニ其実跡ニ因テ知
ラレシ處ナリ仝島南東部ノ海ハ現今各國ノ船
舶往来絶ヘス故ニ恐ラクハ早晩必ラス各國ノ人来
ツテ此地ノ事務ヲ執ルヘシ西國人ノ此地ニ據有シテ
事ヲ執ルハ我カ日本ノ妨ケナリ
第二日本山居ノ民ハ其質生番ノ民ト交誼ヲ成スニ
足ル清國ハ此ノ如キ兵ナシモシ日本ニテ此地ヲ取
ラハ時日ヲ費サス兵力ヲ以テ生番ヲ服從シ仁心ヲ
以テ教育シ漸ニ其智ヲ開クベシ
第三清國政府ノ便利ヲ云ハンニ他ノ國人ノ臺灣ニ據
有セシヨリ日本人ヲシテ據有セシムルニ如クヿナシ如何
トナレハ其俗其風大ニ西人ヨリ近ケレハナリ
若シ清國政府ニテ日本ヨリ乞フ所ノ条目通リニ此地ヲ
与フルヲ肯ンセス又ハ条目ノ有無イカンニ拘ワラス之ヲ与
フルヲ否マハ予将サニ生番ノ居ル島ノ一部ニ據有ハヘシ

之レ清政府カ此地ニ政権ヲ及ホスヲ怠リ而シテ此地
空虚ニ属セル故ナリ此虚嚇ニ聲勢ヲ与ヘンニハ使
節ヲ北京ニ送ルノ前ヨリ兵糧武器ノ類ヲ備ヘテハ千
ノ兵ヲ宮古島ニ屯住セシメ此地ヘ兵ヲ送ルニハ北東ノ
ムシリン風ニ乗セハ洋式ニテモ和様ニテモ風帆船ニテ費
ヘ少ナク容易スク運送スルヲ得ヘシ此外ニ一ノ甲鉄ト二
ノ小汽船トヲ清國ノ南岸及ヒ臺湾ノ近邊ニ注来
巡視セシメ以テ談判ノ了ルヰニ至ルヘシ

萬一此虚喝其詮ナク実戦ヲ遂クヘキニ至ラハ必スヤ
速カニ島ノ西岸ヲ據有スヘシ此理如何トナレハ島ノ
東部ニハ碇泊スヘキ穩ナル港ナク我船風荒ヲサケル
地ナシ因テ島ノ西岸ニ據有シテ本営乃チ基根
ノ處ト為シ東部ニアル兵ニ糧器ヲ送リ出スノ地ト為
サヽルヲ得ス風荒キトシテ月餘ニ及フヿモアレハ東部
ノ兵飢餒ヲ免カレス或ハ戦器ヲ事缺ニ至ルヘシ
此西岸ヲ據有スルヿヲ得ンニハ甲鉄艦ヲ「ピヤカドルス」

ニ送リ「マニラ」及ヒ「ポンテー」ノ港ヲ取リ之ヲ守衛シ之ヲ
保存スヘシ又全時ニ運兵船ヲ宮古ニ送リ水入リ十
二フート以下ノ炮艦三隻ヲ以テ之ヲ保護シ屯兵
八千ノ内一百ヲ「リーベイ」ニ送リ能幹ノ指揮役ヲ
以テ此地ヲ守衛シ又千五百ヲ鷄籠ニ一千ヲ淡水
水ニ送リ而シテ一ノ炮艦ヲ鷄籠ニ泊スヘシ
宮古島及ヒ臺湾ノ北部ニ大風起ルヤ屢ハナリ併
ラ宮古島ヨリ「リーベイ」「キーロン」及ヒ「タムスイ」ヘノ距

離ハ甚タ遠カラス
「リーベイ」ヘハ一百「マイル」英ノ里法ニシテ一マイルハ我十四丁四十三間許ナル故一時間ニ
七マイルヲ走ル汽船ナレハ十四時間ニシテ達スヘシ
「キーロン」ヘハ一百四十マイルナレハ全シク二十時ニシテ達
スヘシ
「タムスイ」ヘハ一百八十マイルナレハ全シク二十六時ニシテ
達スヘシ
故ニ地方ノ引水水先案内ニ能ク尋ヒナハ災難ヲ受ケン恐

レナカルベシ

上ニ云ヒタル手配リヲナセハ尚五千四五百ノ兵ハ宮古島ニ在リ此内四千四百ハ「ピスカドルス」ニ送ルヘシ此島ハ宮古島ヨリ三百五十マイルノ距離アリ流船五十時ニシテ達スルヲ得ヘシ此ノ序ニ前ニ云ヒタル「マコン」港ヲ守衛シ支那ノ襲ヒヲ防クヘシ

マコン港ヲ守衛スルニハ指揮官ヨク注意スヘキ事アリ港ノ南ノ岬地ニ岬ノ突出シタル所アリ此所ニ

両坐ノ堅固ナル炮臺ヲ築キ敵船ヨリ港内ニ抛射スルヲ防クヘシ此岬ハ港ノ門戸トナリテ敵ノ侵入ヲ止ル形ヲリ（此儀別記ニ詳載ス）

此ノ「マコン」島ノ北部ニ支那人ノ一小市アリ食物少シヲ得ヘシ蕃薯（ピーヌット）野菜魚類鶏卵ノ類ナリ

「ピスカドルス」ノ島民ハ支那ノ賤人ニシテ漁ヲ以テ業トス気候ハ熱ケレトモ人体ノ健康ニ害ナシ

「マコン」ニ支那兵ノ屯住スルアリ「ブリゲディエル」之ヲ指揮セリ之レ其ハ意トスルニ足ラ
官名支那語ニテ「ペフタイ」ト云フ
ザル日本ノ甲鐵艦ヲ見ハ戦ハスシテ降参スヘシ
四千四百ノ兵「ピスカドルス」ニ着セハ四千ノ兵ヲ直チニ
島ノ首府ナル臺湾府ヘ汽船數隻ニテ之ヲ送
ルハシ此ノ甲鐵一隻炮艦之ヲ護送スヘシ四百ハ残
リテ「マコン」港ヲ護スヘシ
臺湾府ハ「ピスカドルス」ヨリ九十マイル」ノ距離ナル

故モシ運兵船ハ没前ニ「ピスカドルス」ヲ發セハ翌朝未
明ニ臺湾府ニ着スヘシ
臺湾府ハ周囲三十マイト高ノ煉化石ヲ以テ造成シ
タル圍牆アリ此墻上ニ大炮數多ヲ構ヘタレ炮架
モナク用ニ適スルモノナシ我兵城外適宜ノ要地ニ數
所ノ炮臺ヲ構造セハ大戦ナクシテ此府ノ主権ヲ取ラ
ンコト甚タ安シ敵降参セサルヲ得ンヤ
臺湾ノ城墻ハ其ノ昔堅固ナリシモ當時我兵ノ用

ル所ノ大器ニハ敵シ難カルヘシ

臺灣府一ヶヒ降伏セハ我軍之レニ入ルノ后「アンピンヒエン」ニサンドバッテリー（沙造炮台）ヲ構ヘ敵ノ海路ヨリ入リ来ルヲ防クヘシ此ノ沙造炮台ヲ構造スルノ后ニテモ又ハ其前ニテモ時宜ニ從ヒ甲鐵艦ヲ以テ五百ノ兵ヲ打狗（タカオ）ニ送ルヘシ此地臺灣府ヨリ南三十五マイルニ在リ此地炮台等ノ守衛ナク七隻ノ兵隊ナシ戰ワスシテ平定セシモシ敵ノ炮艦在ルアラハ甲鐵之ニ當リテ直チニ之ヲ打チ沈ムヘシ

此地平定ノ后炮台ノ守衛ヲ施シ敵ノ侵来ヲ防キ而シテ炮艦一隻ヲ殘シ甲鐵艦ハ「ピスカドルス」ニ回ルヘシ

甲鐵「ピスカトルス」ニ回ルノ后甲鐵附屬ノ小汽船常ニ臺灣「ピスカドルス」ノ間ヲ遊回巡察シテ敵ノ船隊ノ福州廣東ヨリ来ルヲ否ヲ探知シ之ヲ主將ニ報スヘシ

主將ハ報知ヲ得ハ直チニ甲鐵艦ヲ發シテ進行

セシメ敵ノ船隊ヲ打沈メ或ハ粉砕キ或ハ之ヲ追散ラスヘシ

臺湾打狗ヲ平定スルノ后成ルタケ速ニ一百ノ兵ヲ打狗ヨリ枋里ニ送ルヘシ此處ニ支那人近来兵卒屯集所ヲ構ヘタリ又五百人ヲ臺湾府ヨリ「シヤリソオ」ニ送ルヘシ此地砂造炮臺ヲ設ケ海上ヨリノ侵入ヲ防クヘシ

前条ノ件ニテ臺湾ヲ取リ之保護シ敵ノ侵入ヲ防クタメ要用ノ手續ハ先ツ畫シタリ前件鷄籠淡水ノ両所ニ炮台ノ守衛ヲ置クヲ云フス之ニ随行ノ「インジニール」士官ニテ注意ヲナシテ要用器具大炮ヲ携ヘテ此地ヲ守衛スヘシ此所置ハ両所ヲ取ルノ后神速ニ施スヘシ輕炮隊又山用臼炮ハ臺湾南部北部ヲ定ムルニ必ス要用ナリ

「キーロン」「タカオ」臺湾府及「タカオ」ニハ税館有テ支那政府ノ雇ニテ外國人ノ此館ヲ司ル有リ此

等ノ夷ニハ金銀アルコト疑ヒナシ此タメ安全ヲ
計ルヘシ又「ジムスイ」ニ近キ「バンカー」及ヒ臺湾府
ニハ大ナル米倉アリテ政府ノ所轄ナリ之マタ注意
セザルヘカラス
臺湾府ニ役立タザル鋲製大炮多クアリマタ「タイ
スイ」ニモ少シノアリ之レ等ハスヘテ運送船又ハ炮艦
ニ積ミ日本ヘ送リ熔解スヘシ
前ニ云ヘル如ク臺湾ノ諸地ヲ取ルキニ方ツテハ
支那政府ニ属スル諸物ハ皆ナ取揚クベシ而シテ
人民ヲ遇スルニハ極メテ信切叮嚀ヲ以テシ決シテ詐
ル等ノアルヘカラス指揮官ハ兼テ支那文ニテ印
刷シタル告書ヲ多ク所持シテ其ヲ掲示スヘシ
其布告ノ文ニハ今我皇國ノ兵ノ此地ニ来ルヤ其
意支那政府ノ悪行ヲ戒ムニ在リ敢ヘテ罪ナキ
民ヲ害スルヿナシ我皇國ニ恭順スル者ハ誓ツテ
之ヲ愛護スヘシ併ナカラ人民ノウチモシ兵事ニ

携ハリ又ハ支那政府ニ内通スル者アラハ忽チ軍
律ヲ按シテ死ニ處シテ許サス
キーロンタムスイノ西處ニテ平和ノ後ハ土人ヨリ
食糧ヲ買得ルコト能フベシ併ナカラ数週日ノ
后ニ在ルヘケレハ我兵元ヨリ数週日ノ食糧ヲ
携フヘシ
臺湾府打狗ノ西處ニテハ我兵食糧ヲ得ルヤ
難カラス蚤然不慮ヲ備フルタメニ復タ数週ノ食
糧ヲ用意スヘシ
前ニ云ヘル諸地ニテ食糧諸品ヲ貯蔵スル倉庫
ヲ得ルコト甚タ易シ
枋寮(ホンリヤオ)及シヤリオノ西地ハ居民サナキ故我屯兵
最初ハ食糧ヲ得ル易カラス臺湾府ヨリ食
糧ヲ送ルヲ要ス
爰ニ云ヘル四所ニ於テハ食牛魚類乾野猪肉
ヲ得ヘシ又臺湾府打狗淡水鷄籠ノ四地ニテ

ハ米糖甘蔗カラウンヌットノ諸種ヲモ買得ヘシ
最初ハ金ヲ以テ之ヲ買フトモ四百万ノ人口アレハ后
来ノ収納云フヲ待タサルナリ
クワートルマストル衣食ヲ給スルノ官員ノ注意スヘキハ淡水「キーロン」
ニテハ暑寒表中度ヲ取レハ第二月五十五度第
三月六十二度第四月七十度第五月七十五度
ナリ
臺湾府及ヒ打狗ニ於テハ尚少シク熱度ヲ増
スナリ
インジニール士官三員此行ノ必要ナリトス且海
軍士官両員ヲ要ス一ハ甲鉄ヲ指揮シ一ハ運
送船及ヒ其他ノ事務ヲ掌ラシム
臺湾平定ノ后支那政府后来ノ平和ヲ否
ムヿモアルヘシ其タメニハ八千ノ外ヵ前ニ四千ノ兵
ピスカドルスニ在ルヲ要ス此兵進ンテ厦門ニ至リテ
此地ヲ擾有シテ支那政府ニ逼リテ予ト和

ヲ結ヒ戦費ヲ求ンヿヲ要ス廈門ハ「ヒスカドル」ス
ノ麻昆港ヨリ僅カノ距離ニ在リテ汽船ニテハ十
二時間ニ達スヘシ

第二覚書追加

宮古島ニ良港アリ雖然此近海ニ白珊瑚叢
生シ石礁多ク且ツ入口甚タ狹小ナリ故ニ
船舶此港ヲ出ルコト遠カラスシテ或ハ忽
チ風浪ノタメニ激碎セラルコトアルヘシ
此等ノ島ヲ舟人称シテ颶風ノ巣窟トイフ
船舶此島ヲ出ルノ時天氣極メテ好晴ナル
モ港外ニ至ツテ忽チ颶風ノ天氣ヲ見ルヿ

アリ而シテ港ニ囲ル能ハサル也之等ノ数件アル故ニ宮古島ヲ此役根據ノ地トナシカタシ

此上ニ今一条ハ兵ヲ送ルニ方ツテ一度同島ニ揚陸セシメ又之ヨリ臺湾ニ送ラハ運送二重トナリテ入費モ又隨テ多カラン

因テ此島ヲ用ユルコトナク長崎ヲ根據ノ地トナシテ兵ヲ淡水雞龍ヵノ諸處及ヒピスカドルス送屯セシコト良全ノ策ナルニヘシ

尤前陳ノ策ト少シク異ナル所アルモ敢テ大体ノ差錯アルコトナシ

茅三覚書

臺湾ノ南涯(ハウヤンヨミド)ヲ取リ我権ヲ布シ及ボサンニハ
先ツ海岸ノ近地ニ堅牢ノ木材ヲ以テ木架(ブロック)
ノ家屋(ハウス)ヲ壘々構造シテ之ニ兵隊ヲ屯住セ
シメ次茅ニ奥深クニ里ニ一宇或ハ五里ニ
一宇其地勢ニ従ヒ之ヲ構造シ同シク屯兵
ノ處トナス「シヤリヤオシ」ヲ以テ此兵隊ノ本営
トナシ同所ヨリ兵ヲ送ルヘシ又同所ヨリ

運兵ノ大路ヲ築造シ木架構屋ノ在ル所ニ
ナ此路ヲ連続ス
諸所ニ構造シタル木架屋ノウチニハ山川
ノ地形ニヨリテ耕田商買ノ便ヨキ所ニハ
必ラス「ハフカス」人又ハ支情アル生番等ノ
来住シ保護ヲ恃ムモノアリテ次第ニ一ノ
村落ノ形ヲ成スヘシ
此后教育ニ要用ナル丁ハ先年和蘭人ノ設

ニヲシヘシ如ク生番ノ詞ヲ横文字モシク
ハ仮名ヲ以テ書習ハセル丁ニアリ此ヲ行
フニ幼婦女子ニ先ツ教ルヲ捷径トス其故
ハ女子ハ多ク家ニ在テ童幼其傍ニ圓繞ス
レハナリ
テユイラソック地名ハトキトク人名ノ配下ニシテ
此地ノ酋長ナリ
サバリ地名ハイーソック人名ノ配下ニシテ此地

ノ酋長ニ
右両地ノ近地ニ村落アリテ既ニ開化ニ志
シタル者アリ此等ノ人性大ニ音樂ヲ好ミ
且武藝ヲ学フヲ好ム此両技ヲ教フヘシ
トキトク及ヒイーソックノ両人ヘ土地ノ
政務ヲ取扱ハシメ臺湾南部ノ地ニモ及ホ
シナハ尚ホ他ノ生番ニ親ミク交リ結フニ
至ラン元ヨリ日本ノ士官ヘ相談ノ上政務

ヲ行フヘキナリ當年第四月十七日李ヨリ
清國在留米公使魯ヘ送リタル書翰ハ既ニ諸事
ヲ含有ス中ニ支那人ノ生番ニ債ヲ負ヘル
アリ此事速ニ所置ヲナサスンハアルヘカ
ラス又此外ニモ支那人ノ信少キニヨリテ
生セシ争論モ速ニ理非ヲ糾サスンハアル
ヘカラス
コアルツ人種ハ僅カニ百五十人アリ其性

他ニ越エテ実ニ悪ナリモシクハ恭順ノ
心ヲ生セザル丁モアルヘシ然ラハ速ニ誅
滅シテ他ノ番人ヲ懲ラスヘシ又テユイラ
ソックサバクノ如キ及ヒ其他ニモ我ニ順
從シコアルワヽヲ伐タントスル番種人多ク
アルヘシ
テユラソックサバリニテ前ニ云ヒシ如ク
教化ノ術ヲ始シ后海路ピーラムニ至リ同

様ノ手立ヲ以テ木架ヲ構造シテ次茅ニ南
地ニ向ヒ牡丹ノ部ニ及ヒ又テユラソック
サバクヨリモ次茅ニ進ンテ牡丹ノ部ニ入
リ両方此處ニテ出會スル様ニスヘシ
ピーラムノ北ニ於テ和蘭人ノキヨリ西部
ノ平原ニ住シ近年支那人ノ暴行ニヨリ東
部ニ移リ主シタル番人ノ大村落アリ此地
ラサムセンタイト名ツク此地ニ於テモテ

ユラソウクサバクピーラム等ノ地ニ於テ
施セシ手数ヲナスヘシ
サムセンタイトピーラムノ間ニ生番アリ
必ス先ツピーラム」ヨリ了リテ后餘地ニ及ハ
ス直チニサムセンタイ」ニ至リ夫ヨリ又ピ
ーラム」ニ向ヒ両地ヨリ互ニ進ミテ中間生
番ノ地ニテ會スル様ニスヘシ
左ニ記スル名目ハ島ノ南涯ナンサーノ地

ヨリ「サムセンタイ」ニ至ル迄ノ間ニ住スル
番種ノ名ナリ
コアルツ　ハドースス　パットアバット
ゲエアビット　ドゥドゥウ　サバリ
トパッカット　デイーブン　此処ニ三十人或ハ四十人ノハッカス又ハ支那人ノ住所アリ
サムアゲン　サイカボン　支那人或ハハッカス人ノ家四軒アリ
タムマラックアン　アテイバイ　パイナセッキー
ピーラム　支那ノ家五軒アリ　バランアン　支那人ノ家八十軒アリ

ドウラン　支那人ノ家一軒アリ　アマイボン　支那人ノ家一軒アリ

カナイバンク　支那人ノ家二軒アリ　バブクット

ドウライイック　公二軒アリ　ムウルス　公五軒アリ

サムセンタイ

此目録ハ李ガアンシインヨリ得タル所ナリ「アンスインハピーラムノクイン女主ノ子ナリ然ルニ此ノ中ニブータン及ヒデユイラソックノ名ヲ載セス李曰思フニ他ノ名ヲ以テ記サレタルヘシ或ハ酋長ノ名ヲ以テシ或ハ大村落ノ名ヲ以テセシモ知ルヘカラス

李曰予「アンスインノ與ヘタルサバリノ記録ヲ曾テ一覧シ次ニ親シク予自ラ経歴セシニ錯フ處ナシ此ヲ以テアンスインノ与ヘタル目録ノ正シキヲ知レリ

「ピラム」ハ「ピーラム」ト称スル衆多ノ村

種部ノ首地ナリ一千八百七十一年ニハ此
地女主ノ配下ナリシ
ボテルトバコ島ハ「ピーラム」ヨリ見ユボテ
ルトバゴヲピーラム土人ハボーテイト云
ピーラム土人ノ説ニピーラムハタカオノ
東ニ在リト而シテトアソアブート云フ大
山ノ麓ニ在リ
トアソアブー山ハ海上ヨリ望ムニ北ノ項

上尖峯アリピーラムニ大石アリ彫刻セル
文アリ時代分ラス土人之ヲ禮拜セサレト
モ尤之ヲ尊敬ス
ピラムヨリホンリーニ陸地ノ旅行モ出来
ルナリ路程甚遠カラサレトモ険阻ナル故
十日ヲ費スヘシト アンスイン云ヘリ此路
野蕃ノ地ヲ経ルニ因リテ旅ハ二百人計
ノ護兵ヲ要ス之又アンスイン説ナリ

太政官

北東風ノ件ニハ蒸氣船エビーラム」ニ碇泊シカタシ故ニ人ヲ送ル ノ船ノ人數上陸ノ上直チニ安穩ノ地ニ廻スヲ良トス